

飯伊 産業経済動向

No.466 2018/1
(30. 2. 25 発行)



http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,893	枚	10.1	%	△	1.4 %
	金額	5,249,904	千円	15.4	%		3.3 %
うち不渡発生状況	枚数	8	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 4 枚)	
	金額	2,534	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 682 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	8	件	(前月 6 件)		(前年同月 6 件)	
	飯伊	1	件	(前月 0 件)		(前年同月 2 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(12月)		48	戸	△	40.0 %	△	4.0 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(12月)		1.69	倍	(前月 1.74 倍)		(前年同月 1.64 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,904	台	△	4.8 %	△	5.4 %
	中古車	422	台	△	28.8 %		9.0 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (12月)	新車	3,596	台	△	10.4 %	△	2.3 %
	中古車	884	台	△	2.6 %		17.4 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	104,109	台	△	7.1 %		0.9 %
	出	102,615	台	△	10.9 %	△	0.2 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	70,287	台	△	9.5 %		4.9 %
	出	64,393	台	△	17.4 %		2.0 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	13,128	台		8.6 %	△	2.0 %
	出	13,406	台		7.7 %	△	1.6 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	34,500	台	△	9.5 %	△	1.7 %
	出	32,666	台	△	14.2 %	△	2.7 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		134	件	△	28.0 %		15.5 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		3	件	(前月 0 件)		(前年同月 4 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	25,548	人	△	9.6 %	△	3.5 %
	飯田～名古屋	17,511	人	△	2.6 %		2.6 %
	飯田～長野	8,370	人	△	4.5 %	△	2.3 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,814	人	△	20.1 %	△	13.8 %
	右回り	2,860	人	△	20.4 %	△	14.0 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともにしています。



100%植物性インキ
[リチウム]100%を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

1月の製造業の業況判断指数(DI)は、プラス19.4で、前月から10.6ポイント下降。翌月予測はプラス43.3で、前月から2.7ポイント上昇している。

電気、精密機械器具の販売は、前月比横ばい。一部に前年比増加との声が聞かれたが、景況感は横ばいとの声が多い。半導体、液晶製造装置向け部品の受注は、前月比やや増加、前年比も増加との声が多い。産業機器や医療機器向け部品の売上の前月比は、「年末年始営業」「量産のバラツキの範囲」などやや減少との声が多いが、前年比は増加している業者が多いほか、受注面でも前月比、前年比とも増加している業者が多く、景況感が悪化した業者は一部に止まる。建築用金属製品の売上は、「稼働日数の関係」で前月比減少も、前年比は増加。自動車向け部品の販売は、「1月は稼働日が少なく前月より減少」など、前月比減少。小型電磁機器の販売は、前月比横ばい～やや増加も、景況感に動きは見られない。FA関連モーターの販売は、「1月は稼働日が少ない」など前月比やや減少も、前年比は増加。受注が前月比、前年比とも増加していることもあって、景況感も良好との声が寄せられた。光学機器の受注は、前月比、前年比とも増加、先行きも上向きとの声。電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も良好との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、業者により増減分かれる。前年比は横ばい～やや増加も、「菓子に関しては景況感の変化はない」など景況感の好転には至っていないとする業者が多い。水引製品の販売の前月比は、「新年を迎え取引は閑散とした状態」など減少している。「来年には消費税が上がる。その前に値上げができるか検討中」など各社製品価格の見直しを進めている様子。漬物の販売は、前月比、前年比とも減少との声が聞かれた。

建設業

1月の建設業の景況DIは、マイナス15.4で、前月から7.7ポイント下降。翌月予測DIは、マイナス7.7で、前月から横ばい。

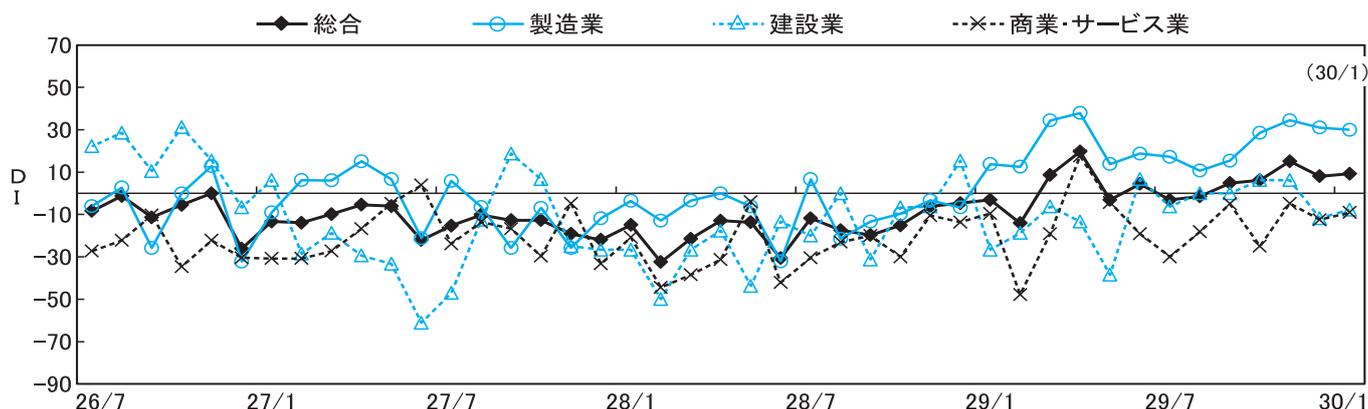
当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約12.7億円で、前月比は3%増加も、前年比は11%減少している(2月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部に増加との声も聞かれたが、やや減少～横ばいとの声が多い。前年比は、やや増加との声が複数。「公共工事の発注は例年通り低調な状況が続いている」「今月の受注は低調だが、繰り越し工事では受注がある」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者こそ見られないが、好転した業者も見られない。

当地区の12月の住宅着工戸数は48戸。前月比40%減少、前年比も4%減少している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばいとの声が多い。一部に、先行きは弱含みとの声も。「輸入木材上昇気味」など資材価格が上昇傾向にあるとの声は多い。

商業・サービス業

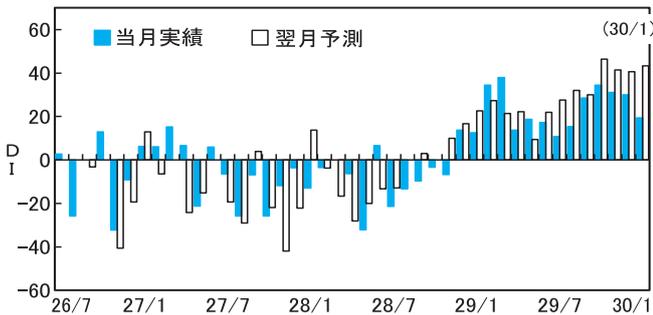
1月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス35.0と、前月より25.9ポイント下降。翌月予測DIも、マイナス10.0で、前月より24.3ポイント下降している。食料品の売上は、前月比減少～やや減少。前年比は業者により増減分かれる。仕入価格の上昇を伝える声は多い。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、景況感に変化は見られない。家事用品卸の売上は、前月比減少も、前年比はやや増加との声。電化製品の売上は、前月比減少、前年比業者により増減まちまち。OA機器の売上は、前月比、前年比共に減少との声。「昨年秋より商品の動きが思わしくない」などの声が聞かれた。衣料品の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。娯楽用品の売上は、「年末商戦の後の月だけに前月比大幅ダウン、前年比も若干ダウン」との声。土産物関連の売上は、前月比減少、一部に前年比も減少との声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比、前年比とも5%減少。12月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比10%減少、前年比も2%減少。自動車販売、整備の売上は、前月比やや減少も、前年比増加との声が聞かれた。市内料理店の売上は前月比減少、前年比はやや減少～概ね横ばい。「ファミリー客が少ない」など景況感が悪化した業者も少なくない。昼神温泉の売上は、前月比減少、前年比は業者により増減分かれる。タクシーの売上は、前月比、前年比共に減少との声が寄せられた。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績	19.4	(前月 30.0)
翌月予測	43.3	(前月 40.6)

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス19.4で、前月から10.6ポイント下降。翌月予測はプラス43.3で、前月から2.7ポイント上昇している。

日本ワインに関するアンケート調査

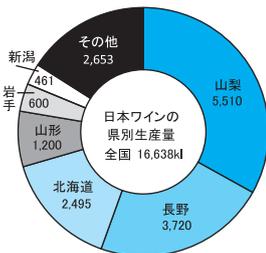
長野県が県産ワインのブランド化を図ることを目的に2013年に開始した「信州ワインバレー構想」も6年目を迎えた。長野県内のワインを含む果実酒の醸造量も増加しており、課税数量で見ると、平成27年度は4,331kl、平成19年度に比べ40%増加している。

また、国内で栽培されたぶどうを100%使用し、国内で醸造された「日本ワイン」についてみると、長野県の生産量は3,720klで全国の22%を占め、山梨県の33%に次いでいる。

メルシャン株式会社が昨年4月に公表した「日本ワインに関するアンケート調査」では、日本ワインの飲用経験者はほぼ9割となっている（男女計）。

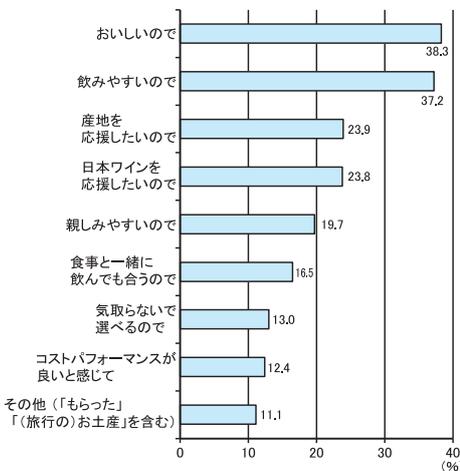
飲用経験者に日本ワインを飲む、選ぶ理由を聞いたところ、「おいしいので」といった回答の他、「産地を応援したいので」といった、「日本のワインである、ということへの共感や応援などの心理的要因」が挙げられている。また、お土産などの贈り物での飲用経験も多く見られたという。

全回答者の8割近くが、「日本ワインのクオリティは年々高くなっている」「日本ワインを飲む機会が増えればもっと好きになる」としているなど、「日本ワインのクオリティや好感度は非常に肯定的」な一方、「多少高くても日本ワインを選ん



（資料：国税庁課税部酒税課）

日本ワインを選んだ、飲んだ理由は何でしたか（複数回答 上位8、その他）



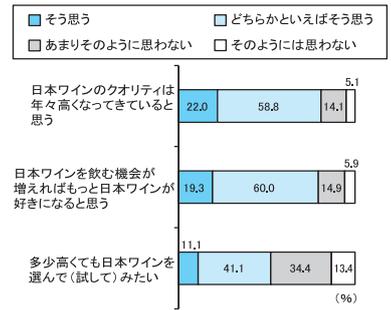
（資料：メルシャン㈱「日本ワインに関するアンケート調査」）

で（試して）みたい」とする回答は他の設問に比べ肯定的な回答が相対的に低く、他の設問と併せると「日本ワインはデイリーユースで楽しむワインとして位置付けたいとする心理的要因が窺える」としている。

その他、日本ワインを飲用したことがない理由は、接触機会がなかったことが要因で、飲用未経験者の8割近くが「飲んでみたい」としている。

当地域でも信州ワインバレー構想の中で松川町などが、「日本の固有品種を用いたワインが特徴の『天竜川ワインバレー』」としてワイナリー集積地とされているほか、近時はシードルの生産も開始されている。このアンケート結果も参考になるのではないだろうか。

日本ワインに関する以下の考え方についてどのように思われますか



（資料：メルシャン㈱「日本ワインに関するアンケート調査」）

機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売は、前月比横ばい。一部に前年比増加との声が聞かれたが、景況感は横ばいとの声が多い。先行きは、生産の増加を見込む声が多い。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。先行き製品価格の上昇を見込む声も聞かれた。一部に人員の不足感を指摘する声も。設備面では、「1台購入」「実施」など積極的な声が多い。

半導体、液晶製造装置向け部品の受注は、前月比やや増加、前年比も増加との声が多い。「車載、スマホ向け増産継続」「データサーバ向け需要拡大につき増産計画継続」「FPD向けは一段落」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者は見られない。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「アルミ材値上げ要求あり」など先行き上昇を見込む声がある。こうした中、雇用面で「若干不足。補充予定」「中途社員若干名採用。新卒複数名採用予定」など増員を図っている業者は多い。設備面でも「計画中」「実施。今後実施予定」など積極的な声が多い。

産業機器や医療機器向け部品の売上の前月比は、やや減少との声が多いが、これは「年末年始営業」「量産のバラつき範囲」などが理由という。前年比は増加している業者が多いほか、受注面でも前月比、前年比とも増加している業者が多く、景況感が悪化した業者は一部に止まる。却って「一部に生産がやや減少した製品もあるが、産業用機械関連はやや増加」「仕事の話は急増」「製造装置向け部品が増加」「特急品は多いが、リピート品の動きも良い」「新規受注拡大」「春先以降の大口の納品が多くなった。先行して加工しているため、仕掛在庫が増加」「株高もあってプラス思考の業者が多い」などの声が多い。こうした中、「板金、塗装、溶接などの加工業者も手一杯で納期が長くなってきている。思うように対応できない」といった事情もあり、「全般に動きが良く、短納期対応が難しくなっている」「納期の確保が重要になってきた」などの声が寄せられた。

こうした中、雇用面では当面現状維持との声が多いが、こうした業者でも「不足。特に男性社員」「やや不足」「新人を育成中」「不足する可能性がある」「今後増員」など不足感を指摘する声は少なくないほか、「稼働時間延伸のため時差出勤をしている」との声も聞かれた。設備面でも、「投資あり。今後も検討中」「当面ないが、夏ごろまでには予定」「増設検討中」「今後増強」など積極的な声が少ない。原材料、

資材価格に当月大きな動きはなかったとの声が多いが、「ステンレス材」などでやや値上がりしているとの報も寄せられた。

建築用金属製品の売上は、「稼働日数の関係」で前月比減少も、前年比は増加。受注面で「かなり動きが出ている。年間で最も良い時期だが、前月、前々月が低調だった反動が出ている」といったこともあり、景況感も「上向き」との声が聞かれた。原材料、資材価格に関し「まだ上昇中。物によっては欠品も出ている」という。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、「1月は稼働日が少なく前月より減少」など、前月比減少。「ハイブリッド部品が好調」などの声が聞かれた一方、売上の前年比が減少した業者も見られ、こうした業者では景況感も悪化している。雇用面で「日本人の求職者が減っており、派遣会社も外国人に頼る傾向にある。最近では中国人よりベトナム人が多い」「依然として人手不足が続いている。子供のインフルエンザ感染に伴うパート労働者の欠勤などで工数が不足」「求人折込をいれたが反応が少ない。面接に来られた方も現在仕事についている人が多く、人手不足は深刻」などの声が聞かれた。こうした中、設備面でも「自動化、省力化で工数を削減」などの声が聞かれた。

小型電磁機器の販売は、前月比横ばい～やや増加も、景況感に動きは見られない。一部に先行き弱含みとの声もあるが、こうした業者でも先行きに関する景況感の悪化には至っていない。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、先行き上昇を見込む声も聞かれた。設備面で積極的な声がある。

FA関連モーターの販売は、「1月は稼働日が少ない」など前月比やや減少も、前年比は増加。受注が前月比、前年比とも増加していることもあって、景況感も良好との声が寄せられた。「産業機械向け増加、車載向けは維持で推移している」といい、先行きの見通しも良好という。

光学機器の受注は、前月比、前年比ともに増加、先行きも上向きとの声が聞かれた。原材料価格が上昇基調にあるという。雇用面で「増員するが、更に増員が必要になりそう」など不足感があるという。設備面で積極的な声も聞かれた。

電気、電子製品では、受注、販売とも前月比増加、景況感も良好との声が寄せられた。「開発要員が不足しているため、外部委託を強化」との声が聞かれた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、業者により増減分かれる。前年比は横ばい～やや増加、「特定の販路向きが増加している」「受注が多く売上はプラス」「前年と同じ状況が続いている」「大手メーカーのチョコレートやグミなどは好調だが、他の菓子類は低調と聞く」などの声が寄せられたが、「菓子に関しては景況感の変化はない」など景況感の好転には至っていないとする業者が多い。「繁忙期が間近」など先行きの生産増加を見込む声は多い。「段ボール、運賃等の値上げがある」など原材料、資材価格の上昇を伝える声も複数。設備面で積極的な声も複数聞かれた。

水引製品の販売の前月比は、「新年を迎え取引は閑散とした状態」「資金的には楽な月だが、当月の販売は例年通り少ない」など減少している。「前月の海外からの納品遅れの影響が、例年よりは大きかった」などの声も。各社製品価格の見直しを進めている様子で、「来年には消費税が上がる。その前に値上げができるか検討中」「海外製品の値上げや、運賃、段ボールの値上がりなどコストアップ要因は多いが、来年の消費税増税なども考慮し、値上げは最小限にとどめる方針」などの声が聞かれた。「水引組合として国の伝統工芸品指定を申請することとなった。何とか水引産業を守っていきたいが、余程の新局面開発が必要ではないか」「新製品を出しているが力不足。新規見積はあるのだが納期、単価が合わない。少しでも機械化して『結び』

を広めていきたい」「『使い捨て』とは違う発想が必要ではないか」「簡単で分かりやすく、安価な方法で様々な方面への模索が続いているが、前途多難。各社の案を持ち寄り、同じ方向に資金と人材を投下することを考えても良いのでは」など、新しい市場の開拓への努力が続いている。

漬物の販売は、前月比、前年比とも減少との声が聞かれた。「野菜の高値が続き、本来なら漬物の動きも良くなるころだが、原菜の調達に苦戦。価格、量ともに思う通りならず、積極的に売りに行けない」という。

その他製造業

食品関連包材の生産は、前月比やや減少、先行きは弱含みとの声が聞かれた。原材料価格の上昇を見込んでいるという。

印刷、出版関連の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声が聞かれた。「例年、年間で最も仕事量が少ない時期。前年まずまずだった分落ち込んだ。年度末に期待」「お客様では、精密、自動車部品関連などはそこそこ景気も良くなっていると感じる。一方、小売商店は経費を抑える傾向がある」などの声が寄せられた。雇用面で、「求人中。少しずつ反応がある」などの声。設備面で積極的な声も聞かれた。

衣料品の受注は、前月比、前年比ともに増加、景況感も好転との声が聞かれた。「東京でも降雪があるなど例年になく寒さが続き、買い控えられていたコート類が良く売れた。バーゲンの売上よりプロパーの売上が多く、消費が拡大している感」「春物の素材の手当てが遅く供給が遅れ気味だが、寒さが続いているため流れているわけではない」などの声。雇用面で、「実習生制度の改定に伴い受入側のハードルが上がり、なかなか人を確保できない」「単純作業の希望もあまりなく、手のかかる作業場への申出が少くない」といった事情もあり、不足感があるという。原材料価格がやや上昇しているとの声が聞かれた。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器など家具の生産は、前月比、前年比とも増加との声が寄せられた。「住宅向けは、パッとした明るい情報はないまでも、それなりに忙しい様子。新しいタイプの商品が出ている」などの声が聞かれ、先行きも上向きという。雇用面では、「人員は不足気味。休日出勤と残業でカバー。求人も複数名行っている」などの声が寄せられた。設備面でも積極的な声。原材料、資材価格がやや上昇しており、先行きもこうした状況は続く見込みという。

【企業からのコメント】

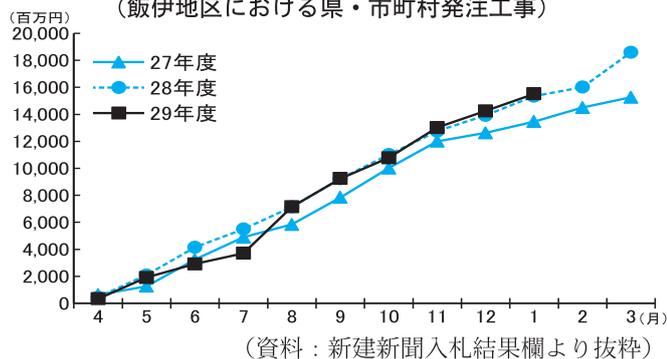
- ★仕掛在庫が増加している。
- ★業種によっては在庫調整も見られる。
- ★長野県労働局主催の女性の就業支援事業で女性のみを対象とした就職説明会が開催され、新聞報道では120名弱の方来られたとのこと。弊社ブースに来られた中から2名が会社見学に来られ、1名採用、もう御一方は検討中。結果から見て効果があったと思う。

集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI -15.4 (前月 -7.7)

翌月予測DI -7.7 (前月 -7.7)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約12.7億円で、前月比は3%増加も、前年比は11%減少している(2月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、一部に増加との声も聞かれたが、やや減少～横ばいとの声が多い。前年比は、やや増加との声が複数。「仕事が少なく各社の競争が激しい。入札のくじ引きも多い」「公共工事の発注は例年通り低調な状況が続いている」「今月の受注は低調だが、繰り越し工事では受注がある」「雪の影響で山間部の作業の遅れが心配」「工事金の入金が少なく、前払金で回している。受注はあるのだが資金繰りは厳しい」「大型物件は減少している。特別な工事に期待せず、手堅く地元で必要とされる仕事を受注していきたい」などの声が寄せられ、景況感が悪化した業者こそ見られないが、好転した業者も見られない。

こうした中、「補正予算で受注額は増加」「三遠南信自動車道関連工事を中心とした補正予算工事の発注に期待」「補正予算工事の発注が待たれる」といった声が多い。

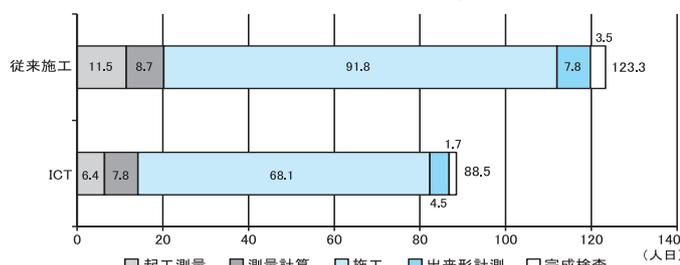
「燃料等」を中心に資材価格が値上がりしているとの声が複数ある。

設備面では、「少し控える」「建物の維持程度」など積極的な声は多くはないが、「経営強化法の支援措置を利用して機器を導入済み」「老朽化した重機の入替え」「エコカー、排ガス対策型重機」などの声も。

ICT土工の活用効果

建設生産システム全体の生産性向上を図り、魅力ある建設現場を目指して導入されたi-Constructionも3年目に入った。国土交通省によると、ICT土工を活用すると、起工測量から完成検査までに土工にかかる一連の延作業時間について平均28.3%の削減効果が見られたという。ICT土工を中小建設業者へ展開する上では、積算面やICTスキルの不足、自治体発注

ICT土工の時間短縮効果



(国土交通省：H28年度ICT土工の分析とH29年度の予定)

者の理解不足といったいくつかの課題があるというが、初期投資が高むという点では、省エネルギー型建設機械導入補助事業による補助金や環境・エネルギー対策資金による融資、中小企業等経営強化法に基づく税制優遇などの環境整備(平成29年度時点)を行い、ICT土工の展開を図るとしている。

民需

当地区の12月の住宅着工戸数は48戸。前月比40%減少、前年比も4%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばいとの声が多い。一部に、先行きは弱含みとの声も。

「輸入木材上昇気味」「合板系上昇気味」など資材価格が上昇傾向にあるとの声は多い。

雇用面の不足感を指摘する声は多く、「不足。人員確保を計画中」「やや不足。募集中」などの声が聞かれた。

建設資材

建設資材の売上は、前月比やや減少、前年比は概ね横ばいとの声が聞かれた。当月、仕入価格が前月に比べやや下降したという。雇用面で「もう一人増やしたい」など不足感を指摘する声が聞かれた。

鋼材の売上は、「季節柄もあるし、稼働日数も少ない」ことから前月比減少。前年比はやや増加も、「状況に大きな変化はない。製造業などで好況な分野もあるが、鋼材需要に結びつかない。鉄鋼業関連でも、受注見通しの明るいところもあるようだが、当月の様子を見ると上向きとまではいかないのでは」など、景況感の好転には至っていないとの声が寄せられた。鋼材価格は、「メーカーの値上げが続く中、我慢していた流通も値上げに踏み切った」との声が聞かれ、先行きも上昇が続く見込みという。

生コンの売上は、前月比減少。前年比は増加。「主な出荷はリニア関連工事、三遠南信自動車道関連工事、天竜川護岸、床固工事、砂防、治山工事に関わるもの。JR発注のリニア関連工事は前月より減少」「正月休みで出荷量は減った。県工事が発注され、次月以降年度末に向け期待が持てそう」などの声が聞かれた。

骨材等の売上は、前月比減少、前年比は概ね横ばい～増加。「1月は非常に悪い月となってしまった。低温、積雪による現場進捗の停滞が原因の一つ。県発注を中心に工事量がない中、気象条件の悪影響は大きい。リニア関連は、地域によって多少動きが出てきたところもあるが、まだまだこの先のお楽しみといった状況。当月は全てが凍結といったところ」などの声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★一部の業者は下請けに徹しているが、組合の中には受注工事が少ない業者もあり、格差が生じている。
- ★仕事は少ないが、不思議と人手は不足している。

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

1月 ○飯田建設事務所分

新築 13件 (前年 10件)

増築 2件 (前年 2件)

○飯田市役所分

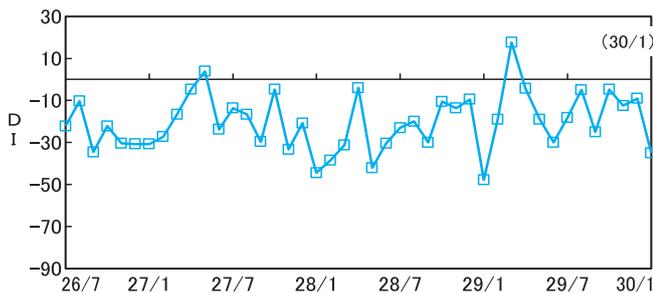
新築 14件 (前年 19件)

増築 4件 (前年 0件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI -35.0 (先月 -9.1)

翌月予測DI -10.0 (先月 14.3)

商業

食料品の売上は、前月比減少～やや減少。前年比は業者により増減分かれる。「野菜類の価格が依然として高騰したまま。通常の値入等では販売、納品できず」「青果、鮮魚の品不足。値上がり」など仕入価格の上昇を伝える声は多い。一部に新卒採用、中途採用を積極的に行っている業者も見られた。

【青果卸売市場】

売上は、「季節要因」で前月比減少という。

野菜は、「品薄による高値は、土物の馬鈴薯・ごぼう・人参等以外は依然として続いている。特に葉物や大根・レタス・キャベツ・白菜といった野菜の高値は5～10割高となり、全体では入荷量11%減で価格は20%高。高値は2月一杯続きそう」との声。

果実は、「野菜の高値の影響も感じられるが、果実の売上はやや不振。要因として、飯田の特産の干し柿の生産量が少なく、みかんも裏年の影響で出荷量が少なかったことなどがある。果実全体では入荷量21%減の価格は12%高」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、景況感に変化は見られない。

家事用品卸の売上は、「12月は年間で最も売上が多い。1～2月は特に少ない」など前月比減少も、前年比はやや増加との声。「寒さでカイロなど防寒用品はよく出た」という。「メーカー各社から運賃負担の依頼がある。特に小口の場合ほど負担を求められる。こうしたことは今まであまりなかった」との報が寄せられた。

電化製品の売上は、前月比減少、前年比業者により増減まちまち。「寒さのせいのかストーブが売れた」「小型温風機(エアコン等)、LED照明などが好調。物件でセットでの納入ができて」「太陽光発電設備関連の売上が期待できない中、FA、制御機器等の売上が前月同様好調。FA、制御系メーカーからも好調との声の聞かれ、今後の売上にも期待」との声の聞かれた。

OA機器の売上は、前月比、前年比共に減少との声。「昨年秋から商品の動きが思わしくない」などの声の聞かれた。仕入に関し、「商品の仕様変更などで実質上の値上げ改定が進んでいる」という。「2月後半からオフィスのリニューアル等什器備品更新がいくつか出てきた。年度末、年度初めの需要期に向け準備していきたい」との声の聞かれた。

衣料品の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声の聞かれた。こうした業者では「依然、消費意欲が低い」など景況感も悪化している。

娯楽用品の売上は、「年末商戦の後の月だけに前月比大幅ダウン、前年比も若干ダウン」との声。先行きも弱含みという。

土産物関連の売上は、前月比減少、一部に前年比も減少との声。「豊田方面からの国道153号線の通行量が減少しており、昼時の土産物販売も前年より減少しているとの声も聞かれる」という。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比、前年比とも5%減少。中古車は、

前月比29%減少も、前年比は9%増加した。12月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比10%減少、前年比も2%減少。中古車は、前月比3%減少も、前年比は17%増加した。

自動車販売、整備の売上は、前月比やや減少も、前年比増加、「当月稼働日数が少ない割には良かったと思う」との声の聞かれた。仕入、販売単価について「昨年より中古車の単価が上がっている。高額車の在庫が増えているのが一因。年式の新しい車を代替するケースが増えている傾向が見られる」との声の寄せられた。

サービス業

市内料理店の売上は前月比減少、前年比はやや減少～概ね横ばい。「ファミリー客が少ない」「降雪、低温等天候に影響され、客足が伸び悩んだ」「送迎をしないと丘の上の料理店に来てくれない」などの声の聞かれ、景況感が悪化した業者も少なくない。新年会に関し、「忘年会が多いと新年会が少ない傾向があるが、降雪でキャンセルが多かったことなどの影響で、月の途中まで前年並みで推移していたものが、終わってみれば悪化」「新年会の需要は減少傾向と感じる。会社関係の新年会の場合、予算が合わない場合が昨今増えている。一方、組合や仲間内での新年会は景気に左右されず比較的安定。法事などが減少」「インバウンドを行っている施設や、独自に中京方面に定期送迎を行っている施設は少しにぎやかな様子」などの声の聞かれた。「厳しい冷え込みで水道やボイラーが故障した施設もある」という。雇用面で「月により大きな変動があり、バイトによる対応などの手を打っているが、オンシーズンの確保が心配」「オフシーズンの平日は現状のスタッフで対応しているため、週末は手が回らなくなる」などの声の聞かれた。

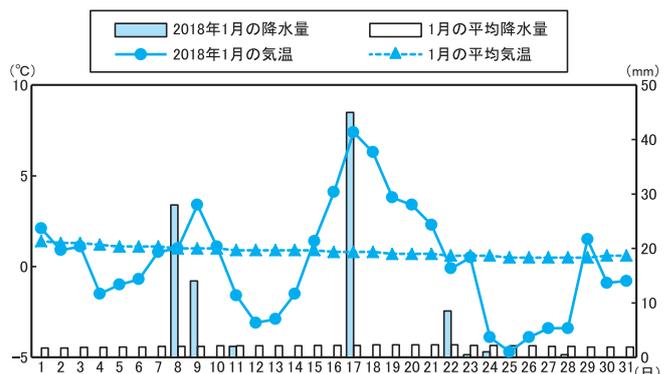
昼神温泉の売上は、前月比減少、前年比は業者により増減分かれる。「スキー客がほとんどいない」「降雪と低温の為、星空による集客効果がみられなかった」「新年会、特に昼の宴会が減少」「インバウンドを行っている施設や、独自に中京方面に定期送迎を行っている施設は少しにぎやかな様子」などの声の聞かれた。「厳しい冷え込みで水道やボイラーが故障した施設もある」という。雇用面で「月により大きな変動があり、バイトによる対応などの手を打っているが、オンシーズンの確保が心配」「オフシーズンの平日は現状のスタッフで対応しているため、週末は手が回らなくなる」などの声の聞かれた。

タクシーの売上は、前月比、前年比共に減少、「天候により需要が伸びる面もあったが、景気の上向き感を感じる伸びはなく、停滞感すら感じる」との声の寄せられた。「労働者の高齢化に伴う減少分を補えない状況。どのような形にしろ、サービスの統合等により、無駄をはぶき、サービスを継続的に提供する環境を作り上げる事が重要」との声の寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★2月は、3、4月の年度末、年度始めの需要期に向けてしっかりと準備をしたい。
- ★トラックの手配が付かないことさえあり、困っている。
- ★格差が拡大しているように感じる昨今。
- ★好景気と良く聞かすが全くその実感なし。

飯田の気温と降水量



「第4次産業革命」と中小企業の取り組み

飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課
 中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

中小企業への期待を込めた国の平成29年度補正予算・平成30年度予算の概要が発表されました。特に、補助金について具体的内容が盛り込まれ、今後、随時募集が開始される予定です。

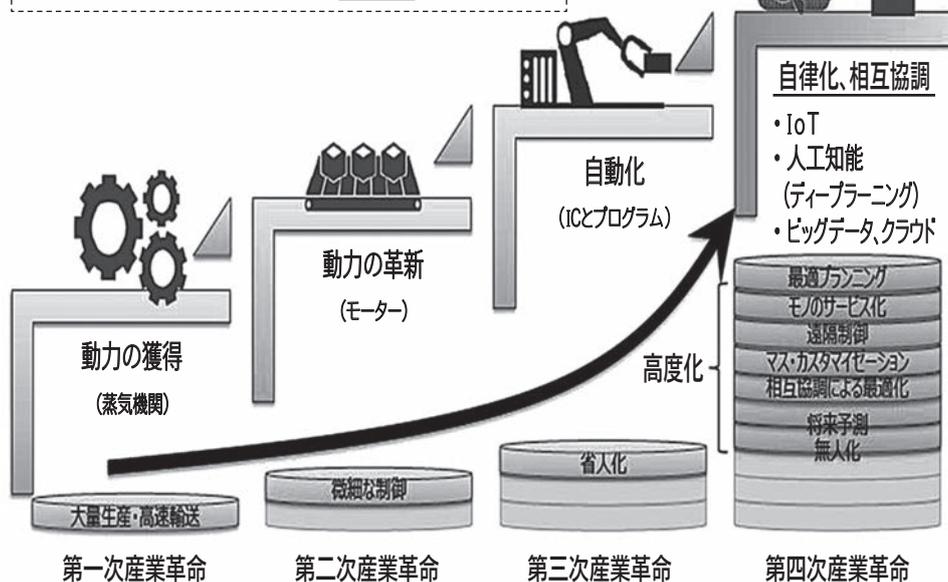
経済産業省や中小企業庁では、足腰の強い経済を構築するため、日本経済の屋台骨である中小企業・小規模事業者が取り組む生産性向上に資する「ものづくり補助金」「IT補助金」をはじめとした各種支援策を講じていく方向です。特に「生産性向上」をキーワードに、革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善といった、中小企業が普段なかなか対応できない事業について重点的に施策を打ち出しています。

IoT、ビッグデータ、人工知能(AI)をはじめとしたデータの利活用に関連した技術革新は「第4次産業革命」と呼ばれ、新たな産業構造の変革の契機として、わが国経済に大きな影響を与えると考えられています。

第四次産業革命の概要

- IoT、ビッグデータ、人工知能をはじめとしたデータ利活用に関連した技術革新は、「第4次産業革命」とも呼ばれ、動力の獲得、革新、自動化に次ぐ新たな産業構造の変革の契機として、我が国経済へ大きな影響をあたえるものと考えられる。

あらゆるモノや情報がインターネットを通じて繋がり、それらが互いにリアルタイムで情報をやり取りしつつ(相互強調)、人の指示を逐一受けずに判断・機能し(自律化)、システム全体の効率を高めるとともに新たな製品・サービスを創出する。(高度化)



(経済産業省「産業構造審議会新産業構造部会」資料 より)

第1次産業革命は19世紀のイギリスで蒸気機関の登場により生まれ、人の手に頼っていた仕事のやり方が機械化され、工業が発展しました。キーワードは「動力の獲得による機械化」。

第2次産業革命は20世紀のアメリカで誕生。電力の活用により機械がさまざまな場所で使えるようになり、大量の機械で大量の製品を作れるようになりました。キーワードは「動力の革新による大量生産」。

第3次産業革命は、20世紀中盤から後半、コンピューターの活用により情報を扱う事が可能となり、人の知能に関する作業も代替可能となって、指示通りに機械が自動で動くようになりました。キーワードは「自動化」。

そして、第4次産業革命は21世紀の今。データ収集や解析技術で機械が自ら考えて動くようになりました。キーワードは「自律化」。

第4次産業革命の核となる技術革新には、

- ☆ IoT (モノのインターネット) — あらゆる事業・情報がネットワークを通じて事由にやり取りできる
- ☆ ビッグデータ — 集まった大量のデータを分析し、新たな価値として利用可能になる

☆人口知能(AI) - 機械が自ら学習し、人間を超える高度な判断が可能となる
☆ロボット - 多様で複雑な作業についても自動化が可能となる
などが挙げられます。

日本の製造業は、「ものづくりの原点は、職人による手作業である」という考え方が長年根付いてきました。精度の悪い機械でも、熟練工の手にかかればすばらしい仕上げになる。それは熟練工が機械の特性を知っているからです。ものづくりのノウハウは個人に属しており、現場の摺合せや技術が十分出来ているからでもあります。

しかし、今後ものづくりがIT技術を使いデジタル化する中において、熟練工の技術や経験に頼るだけでなく、考え方も少しずつ変えていく必要もあるのではないのでしょうか。

新しいツールが出回ると「我が社には必要ない」という中小企業の方もいます。しかし、IT機器も機能が充実して「小さく、早く、安く」なってきており、お金を掛けなくても大きな効果を生み出して企業が成長できる可能性もあります。ITやAIを導入する事が目的ではなく、現場改善や事業戦略に使うという観点が企業にとって重要でしょう。とはいえ、大企業と違って中小企業はIT知識に乏しく、社内で考えているだけでは対応が難しい事も事実です。今は様々な企業事例が公開されています。同業他社が何をやっているか関心を持って経営にあたる事が必要です。国の肝いりでもある第4次産業革命。この機会に自社の生産性向上について国の施策を利用してみてはいかがでしょうか？

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

新入社員研修会のお知らせ

飯田信用金庫・IBC（飯田しんきんビジネスクラブ）・しんきん Assist 倶楽部 主催

新入社員研修会のお知らせ

IBC（飯田しんきんビジネスクラブ）では、恒例となっております、専門講師による『新入社員研修会』を今年も開催いたします。

新入社員の皆さんが社会への好スタートを切り、一日でも早く活躍できますよう、ぜひご利用いただきたく、ご案内申し上げます。

研修カリキュラム

1. 社会人、企業人の一員として期待される役割
2. ビジネスシーンで求められる正しい敬語と話し方
3. 信頼されるビジネス電話のマナー
4. 印象の良い来客対応と訪問時のマナー
5. 信頼されるビジネスパーソンになるために

《開催要項》

日 時：平成30年4月5日（木） 10:00～17:00
（受付開始 9:30～）
会 場：シルクホテル（飯田市錦町） 3階 瑞雲の間
会 師：山本 富士美 氏
一般社団法人 日本CIS認定協会 理事
AICI イメージコンサルタント協会認定コンサルタント
費 用：IBC会員 3,000円
しんきん Assist 倶楽部会員 4,000円
一般企業（上記以外） 5,000円
（受講者お一人様につき、昼食代、税込み 後日請求いたします）
定 員：40名（定員になり次第締め切らせていただきます）



- **社会人としての必要なマナーの習得を**
～電話や来客対応など最低限のマナーを学びます～
- **ロールプレイングと実習を交えて、実践的に**
～現場を想定した役割練習と実習をとりいれます～
- **他社の新入社員と刺激しあって**
～複数企業の新入社員が参加するため
よい刺激になります～
- **新入社員の考え方が分かる**
～参加社員様の書いた作文を
経営者の方にご覧頂きます～

お申し込み ・ お問い合わせは

IBC（飯田しんきんビジネスクラブ）事務局（飯田信用金庫 地域サポート部内）
TEL 0265-53-5811 / FAX 0265-53-1132

新幹線開業の光と影

～ 金沢市「北陸新幹線開業による影響検証会議報告書」にみる実状～

石川県金沢市は、北陸新幹線金沢開業3周年を迎えるにあたり、「北陸新幹線開業による影響検証会議」を開催、平成29年5月から11月にかけて議論を行い、「北陸新幹線開業による影響検証会議報告書」（以下「報告書」）にまとめ発表した。今回はこの「報告書」の内容を紹介するとともに、新幹線開業についての留意事項について考察する。



北陸新幹線金沢駅 鼓門

1. 交流人口が大幅増大

「報告書」は北陸新幹線の開業によって、

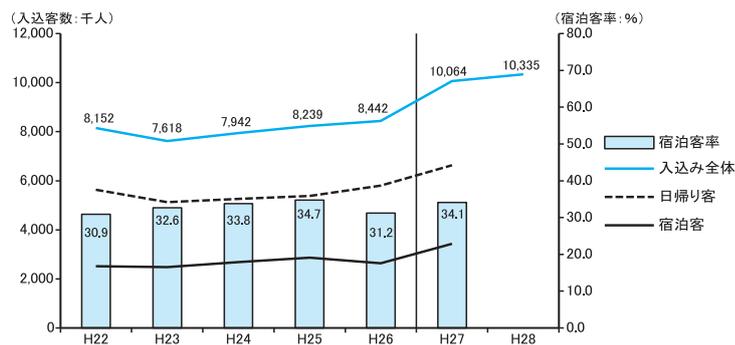
- ・首都圏と北陸の間の鉄道利用が3倍に達する
- ・金沢地域への入込み客数が1千万人の大台を超える

と、交流人口の大幅増を挙げている。（4頁）

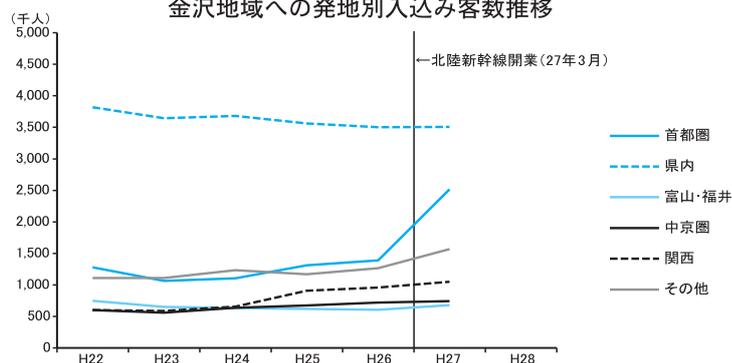
新幹線開業年の平成27年の発地別入込み客数は、首都圏からは対前年比80.9%増。入込み客数の大幅増はこの首都圏からの入込みが寄与している（右下グラフ）。グラフでは判りづらいが、中京圏は同+2.9%、関西圏は同+10.0%、その他地域同+23.6%となっている。

入込み客の日帰り・宿泊内訳（右上グラフ）では、「報告書」は「懸念されていた日帰り客の増加は見られなかった」（4頁）としている。宿泊客率は開業前年の26年にいったん低下（31.2%）しており、27年は回復したがピークである前々年の34.7%をやや下回る水準。「報告書」で詳しい分析は示されておらず、詳細は不明。28年以降の推移をみていく必要がある。

金沢地域への入込み客数と宿泊者数・率推移



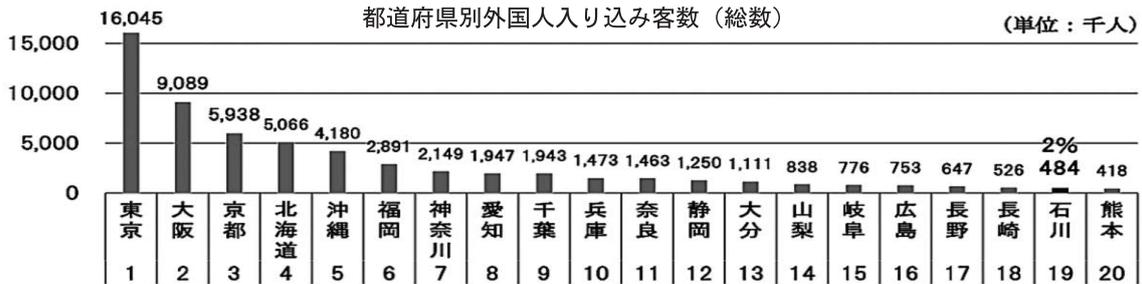
金沢地域への発地別入込み客数推移



（「報告書」データから当課でグラフ作成）

2. インバウンドはまだまだの水準と分析

インバウンドについて「報告書」では「『金沢市観光戦略プラン2016』では、2020年の外国人宿泊客の目標を40万人としていたが平成28年の段階で39万6千人に達している」（7頁）とするものの、「平成28年の訪日外国人2,400万人のうち、石川県への訪問は2.0%にとどまっている」（資料-16頁）として引き続き底上げが望まれるとの認識である。



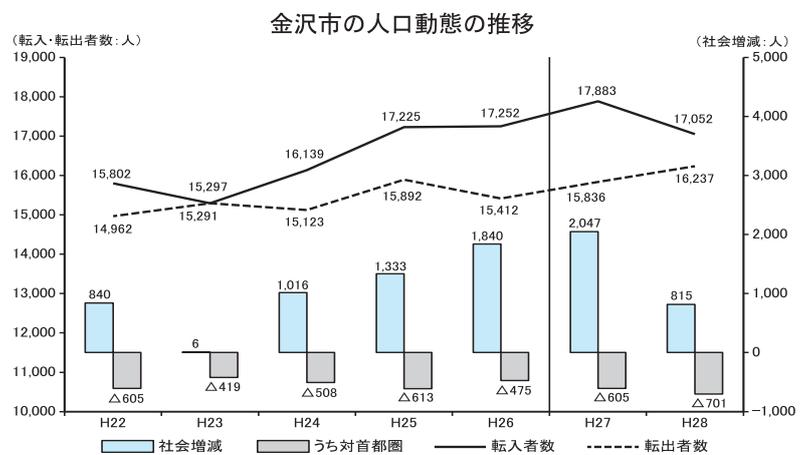
（「報告書」資料-16頁）

3. 予想された「脅威」は

事業所の支社・支店開設状況（H25～28.7）は、「開業前年から、金沢市内に68企業が支店・営業所を開設」、「開業後に拠点を廃止したのは1企業にとどまっている」。

人口動態では、平成22年から28年で転入者が転出者を上回る社会増が続いている。新幹線開通年が最大の2,047人で、28年はプラス幅が縮小。ただ、対首都圏では社会減がこの間続き、しかも近年増加傾向にある。

生活面でのマイナス効果として、「馴染みの店が予約が必要になった」「駐車料金の高騰」「来訪者が自分達の生活圏に入り込み、混雑、ごみのポイ捨て、民家覗きなど発生」など回答された。また「民泊対応でまちづくり協定を締結し先手を打ったのが奏功」というのもあった。



（「報告書」データから当課でグラフ作成）

4. リニア中央新幹線開業に向けて

「独り勝ち」といわれている金沢市の例では参考にならない、という向きもあるかもしれないが、「報告書」をもとに、着眼のポイントを挙げてみる。

(1) 飯田の魅力アップが地域の賑わいになる

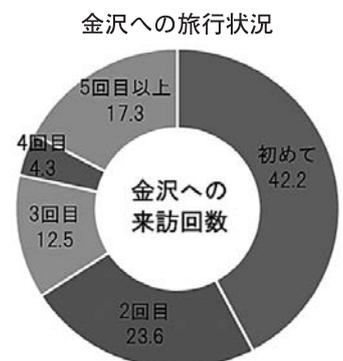
「報告書」は、新幹線開業による賑わいを「新幹線は、あくまで移動手段の一つであり、まちの個性である歴史・伝統・文化を大切に守り、磨き高めてきた、これまでのまちづくりが、国内外の多くの方から評価されている」と述べている。多くの方がリニアで当地を訪れてくれるために当地は何を守り、磨くか。当地の水引関連業界の方の言葉「金沢の水引業者は当地と比べ小規模・零細だが、市場に『水引は金沢』というイメージを上手につくっている」、当地域資源の磨き上げと情報発信の重要さの指摘と受け止める。

(2) 新規来訪者への対応を抜かりなく

金沢ほどの街でも、新幹線開業を機に同市を始めて訪れた者は4割を超えた。「飯田にそれ程人が来る訳がない」などと言っていると、対応が行き届かず、当地の評判を落とすことになるかも知れない。当地域がどのような「おもてなし」をすべきか考え、準備していくことが必要だろう。

(3) 開通後予想されるマイナス面は先手を取って、住民の力で

リニア開通後に予想される生活上の問題は、地域住民で考えて対応を決めていくことも必要になる。



（「報告書」資料-16頁）

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）

第10回 三遠南信しんきんサミット アンケート調査(2) 三遠地域の上伊那地域に対する認知度・関心度・満足度

前回(No.463 29年11月発行号)に続き、「第10回 三遠南信しんきんサミットアンケート調査報告書」(以下「報告書」)の内容を紹介する。今年度より三遠南信信金サミットに南信州地域からアルプス中央信金が加入し全9金庫となったのを記念し、本調査に上伊那地域に関してお尋ねする項目が入った。

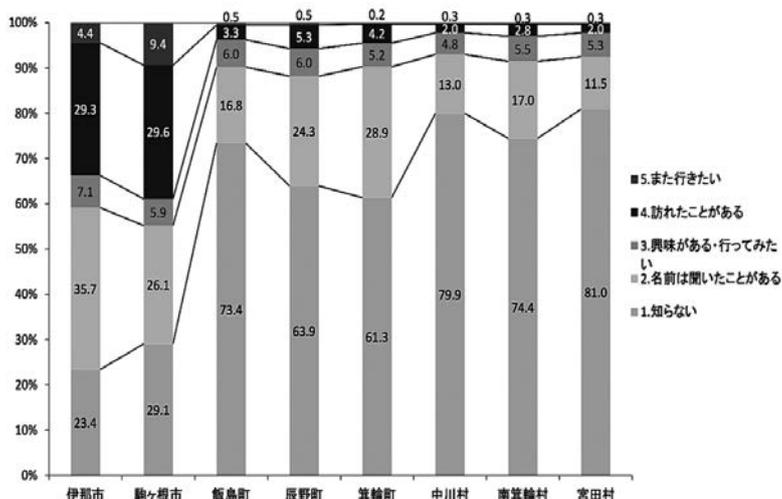
1. 上伊那地域の認知度は…

「①上伊那地域の市町村について知っていますか、また行ったことがありますか」との設問に「1. 知らない、2. 名前を知っている、3. 行ってみたい、4. 訪れたことがある、5. また行きたい」の5択で回答していただいている。

「報告書」掲載の集計グラフは南信州地域の回答も含まれていて昨年の集計と異なるため、開示されているデータをもとに、遠州地域、東三河地区からの回答(n=遠州263、東三河150)を抽出した。三遠南信各地域と同様、上伊那地域においても規模の大きい伊那市、駒ヶ根市が地域の町村を上回って認知度が高い。

伊那市と駒ヶ根市を比較すると、「1. 知らない」の比率が高い(知名度が劣る)駒ヶ根市であるが、「5. また行きたい」と「4. 訪れたことがある」の合計は伊那市を上回っている。「3. 行ってみたい」「2. 名前を知っている」が多い伊那市に対し、駒ヶ根市は実際に訪れる度合いが高く、特に「5. また行きたい」比率が伊那市の倍と満足度が高い。駒ヶ根市には「行ってみて良かった」「また行きたい」と感じる要素が多いと推測できる。

上伊那地域の市町村を知っていますか、行ったことがありますか



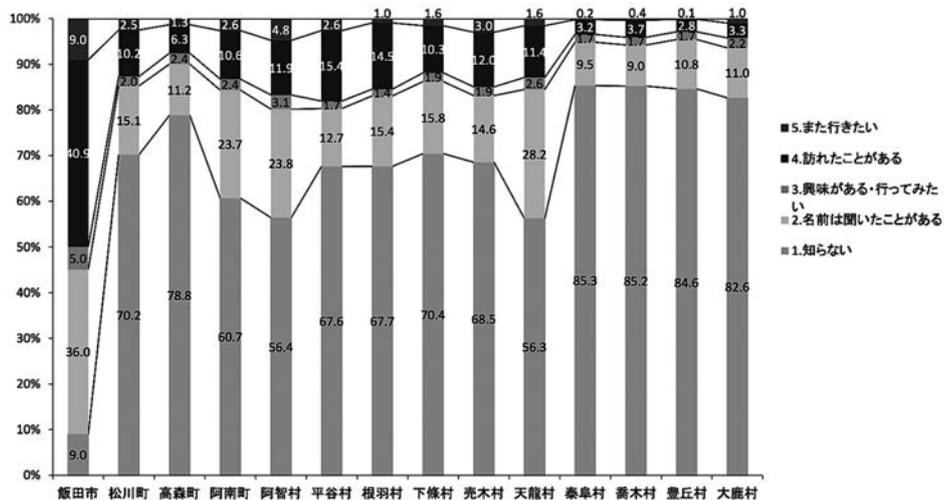
2. 下伊那地域との比較では

上伊那地域と飯伊地域を比較するかどうか気になることである。参考に昨年度第9回サミットアンケート調査(n=遠州497、東三河346)の結果を示す。

これによると、飯田市と伊那市・駒ヶ根市では、「1. 知らない」の比率は飯田市は伊那・駒ヶ根市の半分以下、「4. 訪れたことがある」は4割程で両市を上回っている。満足度の「5. また行きたい」比率は、飯田市は駒ヶ根市並みとあって良く、面目を施したかたちとなっている。

〈参考〉 第9回 三遠南信しんきんサミットアンケート調査

下伊那地域の市町村を知っていますか、行ったことがありますか



両地域の町村を比較すると、「1. 知らない」の比率では、上伊那地域の箕輪町・辰野町などは下伊那郡の町村並みに知名度があり、下伊那北部の町村などを上回っているが、「5. また行きたい」「4. 訪れたことがある」比率の合計は飯伊地域の町村は押しなべて上伊那地域の町村を上回っている。飯伊地域の町村の方が三遠地域との実際の交流が盛んであることが窺われる。

3. 上伊那地域の観光地の状況は

「報告書」は「②上伊那地域の知っている、または行ってみたい観光地、祭り・イベント等がありますか」という設問で上伊那地域の観光地等について尋ねている。これにも南信州地域の回答が含まれているため、データから三遠地域の分を抽出し「報告書」のランキングと並べて掲げた。いずれの項目でも「千畳敷カール・駒ヶ岳ロープウェイ」「高遠城址・高遠城址公園」は上位を占めており、三遠南信地域全域でも三遠地域に限定しても変わらない。

前々項で伊那・駒ヶ根市の比率比較を行ったが、このランキングにある観光地の集客力が大きく影響していることが考えられる。

次に「報告書」ランキングで太枠網掛けしてある観光地は、三遠地域に限定するとランク外となってしまう観光地である。こ

の中で、例えば「かんでんパパガーデン」は、地元での知名度はあるが、三遠地域での知名度・興味関心度はやや劣る、しかしながら、訪問する機会はそれなりにあり、訪問したときの満足度はかなり高い、ということではないか。また「光前寺」は霊犬早太郎を通じた「三遠南信地域交流の原点」ともいえる観光地であるが、同様の傾向がみられる。

三遠南信道の全面開通を見据えて相互の交流の推進と情報発信の強化がいわれるところであるが、このように、地元での知名度と他地域における知名度とのギャップを埋めることの重要性を改めて認識するところである。同様のことは飯伊地域の観光地にもあることと思われる。リニア中央新幹線開通、三遠南信道全面開通に向けて地区内各方面での取り組みを積み上げていくことが必要となっている。

上伊那地域の知っている、または行ってみたい観光地、祭り・イベント等がありますか

知名度

	報告書ランキング		遠州・東三河地域ランキング	
1位	千畳敷カール・駒ヶ岳ロープウェイ	76.6	千畳敷カール・駒ヶ岳ロープウェイ	71.2
2位	養命酒製造駒ヶ根工場	61.9	養命酒製造駒ヶ根工場	51.4
3位	高遠城址・高遠城址公園	61.3	高遠城址・高遠城址公園	48.3
4位	かんでんパパガーデン	55.7	伊那きのこ王国・伊那スキーリゾート	45.7
5位	上伊那地域での果物・松茸狩り	55.3	道の駅 南アルプスむら長谷	43.1

「また行きたい」「訪れたことがある」「興味がある・行ってみたい」「名前は聞いたことがある」の合計

関心度

	報告書ランキング		遠州・東三河地域ランキング	
1位	千畳敷カール・駒ヶ岳ロープウェイ	62.1	千畳敷カール・駒ヶ岳ロープウェイ	55.1
2位	高遠城址・高遠城址公園	52.7	高遠城址・高遠城址公園	37.6
3位	かんでんパパガーデン	44.9	道の駅 南アルプスむら長谷	33.2
4位	上伊那地域での果物・松茸狩り	43.5	養命酒製造駒ヶ根工場	29.4
5位	道の駅 南アルプスむら長谷	40.8	早太郎温泉郷	28.3

「また行きたい」「訪れたことがある」「興味がある・行ってみたい」の合計

訪問経験率

	報告書ランキング		遠州・東三河地域ランキング	
1位	千畳敷カール・駒ヶ岳ロープウェイ	41.3	千畳敷カール・駒ヶ岳ロープウェイ	31.0
2位	高遠城址・高遠城址公園	34.3	高遠城址・高遠城址公園	14.6
3位	かんでんパパガーデン	29.0	かんでんパパガーデン	8.1
4位	光前寺	26.2	伊那きのこ王国・伊那スキーリゾート	8.1
5位	はびろ農業公園 みはらしファーム	22.8	養命酒製造駒ヶ根工場	7.9

「また行きたい」「訪れたことがある」の合計

リピート希望率

	報告書ランキング		遠州・東三河地域ランキング	
1位	千畳敷カール・駒ヶ岳ロープウェイ	13.3	千畳敷カール・駒ヶ岳ロープウェイ	9.9
2位	高遠城址・高遠城址公園	11.3	高遠城址・高遠城址公園	5.4
3位	かんでんパパガーデン	8.6	光前寺	2.0
4位	光前寺	5.9	かんでんパパガーデン	2.0
5位	はびろ農業公園 みはらしファーム	5.6	早太郎温泉郷	1.5

「また行きたい」